フィリピンスタディツアー2016 冬　レポート集

マニラ：2016 年 12 月 26 日（月）～28 日（水）

セブ：2016 年 12 月 28 日（水）～1 月 2 日（月）

（C）特定非営利活動法人ハロハロ
東京都江東区深川 1-1-2　403
TEL/FAX　03-5875-9923　MAIL　mail@npohalohalo.org

■2016 冬のスタディツアーを終えて

今回は全参加者が社会人でしたので、現場での NGO の働きや、貧困地域の人々にとってのニーズ、物質的な供給状況など、学生と比較するとより明確な関心や目的を持った日本人の皆様に現場の人々と交流していただく貴重な機会となりました。

マニラ・セブ各事業地でも、皆様が地域の人々と積極的に交流を育み、私や地域の人々の意見を求めてくださったことで、今までにない視点・観点から物事を考え、捉え直すことができました。とくに多くの子どもや青年層にとって日本人の皆様との交流はこれからの未来へのかけがえのない財産になるはずです。

皆様のホームステイ体験は、日本と全く異なる生活様式であるのはもちろん、貧困地域だからこその不便さに、とても大変な思いをされたことと思います。今回は特に体調を崩された方も多い中ではありましたが、それでも、この実体験から貧困や社会問題に体当たりしてくださった皆様に改めて感謝申し上げます。

これからも、ハロハロは一人一人が自身の幸せや悲しみそして生きがいを人々と分かち合いながら、一人一人が大切なかけがえのない存在であることを感じられる地域を築いていきたいと思います。ともに豊かな社会を目指す仲間として、これからもお気軽にご連絡下さい。

ハロハロ理事長　成瀬　悠

■会計報告　（単位：JPY）

（収入）304,200

参加費：286,200　サポーター会費：18,000

（支出）304,200

マニラ：　34,533

（宿泊費 3,108、人件費 4,125、飲食費 14,550、雑貨 1,500、現地団体寄付金 11,250）

セブ：　126,501

（宿泊費 38,501、人件費 15,500、飲食費 42,500、雑貨 1,000、
旅費交通費 9,000、現地団体寄付金 20,000）

管理費：143,166

（旅費交通費 64,000、人件費 28,000、事務経費 30,000、
サポーター会費 18,000、ハロハロ寄付金 3,166）

皆様からの参加費の一部は、現地協働団体（Paaralang Pantao、Samakabai、Tulay sa Kinabuhi）とハロハロの活動を支える寄付金として活用させていただいております。
なおこの現地視察会にあたり地域の中にも皆様のお金がまわりましたことを御礼申し上げます。

（C）特定非営利活動法人ハロハロ

スタディツアーレポート

株根　秀之

フィリピン　セブ島は４回目の訪問だった。ここ最近はヨーロッパ方面や西アジア方面に行くことが多かったが、久しぶりの東南アジアで、寒い冬から逃げて、温かい地に行くことが何より楽しみであった。私にとっては湯治の旅でもあった。

そうはいっても、スタディツアーである。自分なりに意味のある旅にも出来たらいいと思っていた。スタディツアーはこれで４回目になるが、それなりにどのスタディツアーも楽しくていろんな経験が出来た。しかし、今一つ何かが繋がり切れない旅が続いていた。自分は何かと繋がりを得たいのだろうか。今書きながら、ふと、そう思った。

２０１６年１２月２８日、セブ市のホテルにみんなより早くついて、普段の日本の疲れを回復させる一方で、これからどんなツアーになるのかワクワクもしていた。ワクワクの一番はやはりホームステイへの期待だった。ハロハロのツアーの売りの一つだと思う。

私が滞在させてもらったホスト家族は、セブ市の隣にあるタリサイ市のスクワッター地区に住んでいる家族の家であった。スクワッターとは、不法占拠者という意味であり、とてもネガティブな言葉が響く。様々な理由を抱えて、ここに住み着いている。家も竹やベニヤ板を使った簡素な高床式の家である。でも、なぜかとても快適に感じた。竹には隙間があり、虫や蚊に襲われることもあるが、心地よい風が、竹の隙間から流れてくるのである。トイレも地区の中でも一部の家庭にしかないから、日本から来た人にとっては、普通に辛い環境である。

私を泊めてくれた家族はざっと２０人を超えていた。核家族が主であるフィリピンではあるが、一応独立して家を隣接して建てていて、いつもその中でお父さんお母さんのいる家にみんなが集まっていた。とても賑やかだ。自分は普段、家族と離れて生活しているため、何かとても暖かい、こころ休まる家族の大切さを感じる時間を過ごすことができた。

今回のスタディツアーが始まる際に、それぞれ参加者の狙いや目的を確認し合う時間がある。私はいくつかテーマを決めたが、その中でも特に「子供の将来について」をテーマに時間を過ごそうと決めていた。普段、私はライフワークとしてキャリア支援について勉強し、カウンセリングを行っている。この地区の子供達にもぜひ、夢、キャリアを描いてもらいたい気持ちを持っていた。現実の環境はとても厳しいかもしれない。教育、金銭、家庭環境、地域の慣習などさまざまな壁があると思うが、今回、私が多くの子供たちと触れ合って聴いていくうちに、意外に将来ビジョンを持っている子供がいることがわかった一方で、無関心、よくわからない、イメージが持てない子供もいた。将来のビジョンを持てている子達は、英語力もあり、また好奇心が旺盛であった。様々なことを知りたい欲求があり、それが将来、その子がその子らしい生活をしていくための原動力になりうると感じた。

最後に、私はこのツアーが終わった後に強く感じたことは、この地区の子達の生末を見

（C）特定非営利活動法人ハロハロ

てみたいという思いと、また、近い将来にこの地区を訪れ、このテーマを掘り下げて考えて、聴いてみたいと思った。そこに自分の人生の役割や存在意味が見つかる気がしている。

（C）特定非営利活動法人ハロハロ

スタディーツアーレポート

土井法子

マニラとセブのスタディーツアーに参加して特に印象に残った出来事を抜粋し、以下にまとめました。これから参加するみなさんへ、何かの手助けになれたら幸いです。

【参加の目的】

・高校で地理を教える中で、実際に発展途上国の様子を目で見て体験したかったから。
・単なる観光ではなく、体験したり、学びを深める旅行にしたかったから。
・もともと国際協力やフェアトレード、ＮＰＯなどに興味があったから。
・海外渡航経験は多かったものの、フィリピンには行ったことがなかったため。
・ハロハロさんのスタディーツアーは社会人でも比較的参加しやすい日程であったため。

【マニラでの体験を通して感じたこと】

・初日の夕食にマニラにある社会貢献レストラン「ユニカセ」で代表の中村八千代さんからプレゼンをしていただきました。中村さんの生き方、そしてユニカセの活動を通して社会をよりよくしたいという気持ちが伝わりました。
・ パーラランパンタオ（パタヤス校）を見学し、ダンプサイト見学と家庭訪問インタビューをしました。ダンプサイトはニュースなどで知ってはいたものの、実際にその地域を訪れるとゴミの悪臭や集落の雰囲気が分かりマニラの中心とはまた違う地域であることを実感し、インタビューでは、3 種類の家を訪れ、その違いを感じることができました。インタビューしたある家庭では、「子どもが働き先を見つけたから、今はずいぶんその子のお給料で前より豊かな生活が遅れている」という言葉も聞かれ、子どもが家族を養っていくという考え方があることが印象的でした。また、一方で、貧困から子どもを学校に通わせることができない家庭もあり、スカベンジャーとして働いたり、また、子どもが教育が受けられないことから職が得られず負のスパイラルが生じてしまっているのだとも感じました。
・パーラランパンタオでは、奨学生を中心にコミュニティ活動が行われ、奨学生がとても頼もしく見えました。まだ 18 歳前後の大学生であったものの、将来の夢やビジョンを明確に持っていて、スタディーツアー中は通訳としても手助けをしてくれ、活動する姿はとても刺激になりました。
・雑貨づくりを体験する中で、その地域の住民組織として活動する大変さも聞くことができました。継続して行うことは難しいこともあり、それでもなお、制約のある中でもできることをしよう、という前向きな姿勢を感じることができました。

・ マニラでのスタディーツアーでは、マニラで留

（C）特定非営利活動法人ハロハロ

学をしている大学生やインターンシップをしている参加者に出会うことができ、彼らとの会話を通していろいろな生き方について考えることができました。ツアーでは、一期一会の出会いがあることも魅力の一つだと思います。

【セブでの体験を通して感じたこと】

・約 3 日間、タリサイ市でホームステイをしましたが、ホームステイ中はホームマザーを始め、現地の方々が多くの配慮をして下さいました。ホームステイ先やその周辺の家には沢山の子供たちがいました。どの子も人懐こく、手を取って町中を案内してくれたり、一緒にゲームをしたりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。子どもたちへのアクティビティ活動も、事前に何を行うか迷いながら、歯磨き指導をすることにしました。プロジェクターを使って音楽と一緒に歯磨きができたので、子供たちも楽しんでいました。また、歯磨き指導の前のアイスブレーキングでゲームをしたときもとても盛り上がり、子供のパワーはすごい、と感じ元気をもらいました。普段そんなに小さな子供たちと関わることがないので、帰国してからも、あの子たちはどうしているかな、と気になるほどでした。

・タリサイ市のホームステイ地域のお母さんたちはとても明るくパワフルな方々が多く、一緒に過ごす中で多くの刺激を受けました。辛い状況にあっても、明るく今できることをしよう、という前向きな気持ちが多く伝わってきました。生計向上事業としてラグや洗剤を作るなど、自分たちで暮らしを変えようとする姿勢を見ることができました。

・セブではジュースの廃材を利用したバックづくりを体験したり、アクセサリー作りをしているお母さんたちに話を聞くことができました。バックやアクセサリーを作って販売することで、生活が豊かになることが分かり、とても意欲的なお母さんたちが多かったように思います。

・ホームステイでは、初めて体験することがとても多くありました。集落には井戸があり、その水は、食器を洗ったり、洗濯、体を洗うのに使われています。各家庭に水道はないので、井戸から水を汲んで生活をしています。この地域には、かつてはトイレが設置されていなかったようですが、ハロハロさんの活動もあり、トイレ設置の普及を行っているそうです。また、集落の人は親戚づきあいも多く、親戚同士がとても仲が良いようで、子供たちも親戚同士で遊んでいたりと、仲が良いです。周囲の人と協力しながら生活を

（C）特定非営利活動法人ハロハロ

している様子が分かりました。

・フィリピンでの生活中、日本との違いを考えていました。フィリピンの人たちはとても明るく、人懐こく優しい人が多く、どんな環境でも前向きで、日本にはない良さだと思いました。

【スタディーツアーについて】

・今回初めてスタディーツアーに参加し、今までの旅行とは違って、より深く様々な事を見たり体験することができました。短期間ではありましたが、まず、このような活動がいろいろな地域で行われているということ、日本とフィリピンを繋ぐ存在があるということ、そしてこのスタディーツアーに様々な人が関わっているということを実感することができました。また、マニラのパーラランパンタオの先生たち、セブのグレマー夫妻、そして代表の悠さんには、たくさんのサポートをしていただき、本当に感謝でいっぱいです。疲れや環境の変化から体調を崩しましたが、みなさんがとても親切に助けて下さったので安心して帰国することができました。

・観光旅行と違い、事前にスタディーツアーで何を学びたいか、ゴール設定を行い、さらに毎日フィードバックをしたことで、ツアーで学んだことが印象深く頭に残っています。目的意識を持つことで、見たり聞いたりするときの姿勢が変わりました。また、現地スタッフの方を交えてのフィードバックはお互いの考えを知るのにも役立ちました。

・代表の悠さんと数日間一緒に過ごさせていただき、「ＮＰＯで働くとは」ということを考えるようになりました。悠さんの大きな目標に向かって活動をなさっている姿はとてもかっこよく、そして現地の人とのコミュニケーションを大切にして、地域に根付いた活動をしているということを肌で感じることができました。

・全体を通して、私は今回のスタディーツアーに参加してとても良い経験ができたと思っています。それは、フィリピンを通してみたことや体験したことの衝撃、そして悠さんをはじめ、関わっていただいた沢山の方々の生き方に触れることができ、自分の今後に役立つと思ったからです。

以上、とても簡単にはなってしまいましたが、スタディーツアーに関わってくださった沢山の方々への感謝を込めて、終わりにしたいと思います。もし、まだ参加していない方は、ぜひ一度体験してみてください。

（C）特定非営利活動法人ハロハロ

スタディツアーレポート

西村　拓人

早いもので本スタディツアーへの参加は、3 年目 4 回目でした。

本ツアーの魅力の一つは、少人数で濃い内容であること、参加毎に新しい発見があることだと勝手に思っています。

これまでは毎回 GW に参加していましたが、今回の年末年始ではフィリピンでの新年の迎え方や料理、セブのお祭りであるシヌログ(の準備)などより文化的な側面に触れることができたのが収穫でした。

日本の静かに迎える新年と違い、こちらの大音量のカラオケと爆竹で迎える正月は、衝撃でしたが、悪いものを騒がしくして追い払うという意味がある(と誰かが言っていた) のを聞いて陽気なフィリピンらしさがでているなあと納得です。

今回のツアーでは、事業地の環境美化に子供達との交流、ファミリーインタビューにコミュニティ見学 etc...盛りだくさんの内容でしたが、特に自分の印象に残るのは、ファミリーインタビューやホストファミリーとの交流等、現地での生の声を直接聞けたことです。

今回の参加の目的の一つとして、文化的なバックグラウンドや価値感の違う人たちの話をもっと聞きたいということだったので。自分は、日本でいつも同じ環境に囲まれているとついつい視野が狭くなってしまいますが、このツアーで出会うフィリピン人、日本人を含め様々な方と交流を持てるので、いつも新しい気づきを与えてくれます。

また、毎回感じることですがホストファミリーを含め事業地の方々がとてもフレンドリーに接してくれ、次は何時来るのか何度も聞いてくれるのは本当にうれしく思います。
もちろんハロハロのスタッフの皆さんや現地共同団体の普段からの交流があってのことだと思いますが。

多分、自分はまたこのツアーに参加させて頂くと思います。
そのときは皆さんにもてなされるだけでなく、願わくば何かもっと活動のお手伝いができるようになっておきたいと思います。

（C）特定非営利活動法人ハロハロ

スタディツアーレポート

田原　明

まず初めに私がこのツアーに参加したのは、NGO が活動しているような場所はどのような環境なのか、また仕事はどのようなものなのか実際の現場が見たかったということがあります。

私自身は、現在、フィリピンに滞在し、公立の高校で日本語を教える活動をしています。帰国の近づく 3 月に向けて次の進路を考えたいというのが参加のきっかけでした。

私自身、環境の良いアパートに住まわせてもらっており、交流のある先生体も教師として職を得ている方、学校も比較的に良いエリアにあるため、生徒たちも生活に困っている層ではないように感じていました。

そんななかで、フィリピンのスラム地域やリアルの生活とはどういったものなんだろう、それが見たいと思い、今回のツアーに参加しました。

3 日間セブのスクワッター地域に宿泊させてもらって感じたのは、生活環境の悪さでした。ホストマザーのお母さんは本当に良くしてくれましたし、初日にも「この部屋を用意したわ」と言ってくれたところには、マットレスがひいてあり、お客さんが来るからと用意してくれたことが感じられました。それでも、家全体は小さいですし、お父さん、他の家族はすぐ横とキッチンに、レジャーシートのようなものを引いて雑魚寝です。シャワーがないことは分かっていましたが、トイレと一緒になっているバススペース、その狭さとむきだしの造り、エリア全体の道がぬかるんでいて小虫が飛んでいる環境に誤解を恐れずにいうのならば引きました。

おそらくこれが別のアジアの貧困地域だったら、ここまでショックには感じなかったかもしれません。同じフィリピンなのに、ということが頭では分かっていたものの慣れていた環境と違いショックでした。

それでも子どもは元気で明るく、人も優しく、地域のコミュニティセンターにもなっている幼稚園の取り組みや、月に 2 日行っていると聞いた掃除の取り組みもとても素晴らしいと思いました。写真で伝わるかわかりませんが、子どもたちがとても楽しそうに参加していて、自分たちのことだけでなく周りと一緒に活動をしていくということはとても良いことのように感じました。親から子どもへいろんな活動が引き継がれていく土壌になると思います。でも、子どもは元気だし、人も明るく前向き、と美談にしておしまいにしてはいけないような気持ちを私は今回のツアーで持ちました。

貧困と言われている層は、フィリピンの全体の 3 割。

どのように関わるのか自分できちんと消化していこうと思います

（C）特定非営利活動法人ハロハロ

〇セブスタディツアー日程

12 月 28 日～1 月 2 日

12 月 28 日：ホテル集合・メンバーと初めまして

12 月 29 日：午前中/セブ観光・カルボンマーケット、午後/ゴミ捨て場
ホストファミリーと対面

12 月 30 日：午前中/他エリアのアクセサリー、小物つくりの見学
午後/マザーズグループのミーティング参加・清掃活動参加

12 月 31 日：午前中/料理アクティビティの買い出し
午後/体調を崩して病院へ

1 月 1 日：　病院で半日を過ごし、午後に合流。最終日のご飯を TOPS へ。

1 月 2 日：　午前中/オリエンテーション　午後/フライトまで時間がある子とお昼ご飯

1 月 3 日：　セブを離れる。

（最後に）

フィリピンに住んでいるから暑さも平気、と思い、少し油断もしていたのと食あたりで体調を崩してしまいました。全てのプログラムに参加できなかったこと、メンバー・スタッフの方にも迷惑をかけてしまったことが申し訳なかったです。

今回印象に残っているのは、ホストマザーが受け入れてくれた時に「あなたが初めてなの、今までは旦那が理解してくれなかったけど、今回初めて理解してくれたのよ」と嬉しそうにしていたこと。外からの働きかけがなければきっと変わらなかった家族関係の変化を小さな一言から感じられ、こういうふうに意味があるんだなと実際に現地の人の言葉で聞けたのが印象に残っています。

みんなと

清掃活動

（C）特定非営利活動法人ハロハロ